

第 29 回 KAWASAKI しんゆり映画祭 2023

ご報告



(リーフレットデザイン 市民スタッフ 木下くるみ)

2024 年 3 月

NPO 法人 KAWASAKI アーツ

KAWASAKI しんゆり映画祭実行委員会

目次

1. ご挨拶 第 29 回 KAWASAKI しんゆり映画祭 2023 のご報告にあたって……………2
2. KAWASAKI しんゆり映画祭とは……………2
 - KAWASAKI しんゆり映画祭が目指すもの（理念）
3. 2023 年度の主な事業(概要) ……………3
4. 2023 年度の各事業（詳細）
 - 4-1 第 29 回 KAWASAKI しんゆり映画祭 2023(本祭) ……………4
 - 上映作品リスト
 - 各プログラム及びイベントの内容
 - 4-2 なつやすみ野外上映会……………8
 - 4-3 ジュニア映画制作ワークショップ 2023……………9
 - 4-4 バリアフリー上映「しんゆりバリアフリーシアター」……………9
 - 4-5 地域連携（他団体・事業者等との交流連携）……………10
 - ① 地域団体との連携と交流・イベント等への参加
 - ② 本祭における出店の展開
 - ③ 「サポーターロール」の制作・上映
 - ④ ポスター等の広告宣伝および店舗等でのチラシの配架
5. 最後に

1) ご挨拶

第 29 回 KAWASAKI しんゆり映画祭 2023 のご報告にあたって

日頃より、KAWASAKI しんゆり映画祭へご高配を賜りまして、誠にありがとうございます。

2023 年度の映画祭（以下、本祭）は、10/28、/29、11/2～/5 の日程で実施しました。今回は「この映画たちがあなたと出会えますように」をキャッチコピーに、13 本の映画の上映とイベントを実施し、11 名のゲストをお招きしました。4 年ぶりに感染症の影響のない開催となり、前年を上回る観客にご来場いただきました。

8/26 には、「なつやすみ野外上映会」を川崎市立王禅寺中央中学校の校庭で実施し、多くの観客にご来場いただきました。地域の店舗や福祉団体による出店も行い、4 年ぶりに従来の開催方法での実施ができました。

また、12 月には 3 日間の中学生向けの映画制作ワークショップを 2 日程で実施しました。計 15 名の中学生が参加し、各日程で 1 作品の短編映画を制作し、川崎市アートセンター・映像館での作品披露を行いました。

上記に加え、「あさお区民まつり」、「しんゆりフェスティバル・マルシェ」、「あさお子育てフェスタ」、「カフェグランデあさお」といった新百合ヶ丘のまちづくり活動への参加や、「しんゆりエリアマネジメント・コンソーシアム」のコミュニティ会員としての活動を通して、地域の団体との交流を行いました。

ご高配をいただいた皆さまへ感謝申し上げるとともに、2023 年度の開催結果についてご報告させていただきます。今後とも本映画祭へのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

NPO 法人 KAWASAKI アーツ
KAWASAKI しんゆり映画祭実行委員会

2) KAWASAKI しんゆり映画祭とは

KAWASAKI しんゆり映画祭は、1995 年に川崎市の「しんゆり・芸術のまち」構想の一環として新百合ヶ丘でスタートした映画祭で、「市民（みんな）がつくる映画のお祭り」として、地域住民、企業や団体等のご支援とご協力を得ながら、市民ボランティアスタッフが企画・運営の中心を担い、行政がバックアップする市民映画祭として発展してきました。映画祭は、以下の KAWASAKI しんゆり映画祭が目指すもの（理念）と、通年テーマ『映画とともに まちとともに』を掲げて活動をしています。

市民ボランティアのひとりひとりが映画を「創る人」と「観る人」をつなぐ「観せる人」として、「街のなかにある映画祭」の役割を自覚し日々の活動を行っています。市民の目線から多様な映画の上映機会をつくり、より深く映画を楽しめるイベント企画を行うとともに、これからの映画を「創る人」「観る人」「観せる人」になる次世代への働きかけや、どなたでも劇場で一緒に映画を楽しむ環境づくりにも取り組んでいます。

これからも私たち映画祭は、地域の皆様や観客の声を聞きながら、映画や芸術文化を通してこの街に暮らす人々をつなぎ、街とともに発展していく映画祭を目指して活動していきます。

「KAWASAKI しんゆり映画祭」が目指すもの（理念） * 2020 年 3 月策定

1. 「KAWASAKI しんゆり映画祭」は、市民（みんな）が映画を自発的に上映する活動を通じて、個性豊かで魅力ある芸術文化のまちを実現します。
2. 国内外の良質な映画を市民目線で発見し、表現と作品理解の多様性を尊重しながら、多くの市民に届けます。
3. 誰もが気軽に映画を劇場で楽しみ、映画・映像文化の素晴らしさを感じてもらえるよう、映画を鑑賞する上での環境を整えます。
4. 映画祭を担う市民ボランティアは、映画を創る人・観る人・観せる人のつながりを大切にし、映画を観る喜びをともにします。
5. 川崎市アートセンターをはじめ、地域の様々な団体等と連携協働を図り、川崎市が進める「しんゆり・芸術のまち」構想の実現に寄与します。

3) 2023 年度の主な活動と概要

1. 第 29 回 KAWASAKI しんゆり映画祭 2023(本祭)

開催期間：2023 年 10 月 28 (土)、29 日(日)、11 月 2 日(木)～5 日(日)

開催会場：川崎市アートセンター映像館・小劇場 * 詳細は 5 ページ

【動員数データ】

有料プログラム数 13 プログラム (13 作品) 合計上映回数 24 回

チケット売上枚数 1535 枚 招待 161 名 観客動員数 1696 名 (対前年度比 + 約 8 %)

2. 第 23 回なつやすみ野外上映会 (麻生区地域課題対応事業)

開催日時：2023 年 8 月 26 日(土)18 時 30 分～21 時

開催会場：川崎市立百合丘小学校校庭

上映作品：「シチリアを征服したクマ王国の物語」(フランス・イタリア合作)

入場者数：294 人

※上映前に昨年度実施したジュニア制作ワークショップのイベント実施

* 詳細は 9 ページ

3. ジュニア映画制作ワークショップ 2023

開催期間：2023 年 12 月 2 日(土)・3 日(日)、9 日・10 日(日)、17 日(日)

開催場所：川崎市アートセンター、しんゆり交流空間リリオス、新百合 21 ビルなど

講師：三澤拓哉氏(映画監督、「風像」代表)

参加者数：15 名

* 詳細は 10 ページ

4. バリアフリー上映(本祭で実施)

* 詳細は 10 ページ

5. 地域連携 (他団体・事業者などとの交流・連携)

* 詳細は 11 ページ

6. 第 29 回 KAWASAKI しんゆり映画祭 2023 主催・共催・特別後援・後援・協賛・協力

主催 NPO 法人 KAWASAKI アーツ

共催 川崎市 川崎市アートセンター(川崎市文化財団グループ) 川崎市教育委員会 川崎新都心街づくり財団

特別後援 日本映画大学 昭和音楽大学

後援 「映像のまち・かわさき」推進フォーラム NPO 法人しんゆり・芸術のまちづくり

麻生区文化協会

協賛 新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアム 小田急電鉄株式会社 ホテルモリノ新百合丘

新百合丘農住都市開発株式会社 川崎信用金庫 株式会社川崎フロンターレ

株式会社エーイーティー 新百合ヶ丘エルミロード 有限会社柿生恒産 株式会社カジノヤ

川崎商工会議所 河津造園土木株式会社 新百合ヶ丘商店会 セレサ川崎農業協同組合

三井ホーム株式会社 オーヴ株式会社 陸前高田地域振興株式会社 カンガルー

チャンキー・チャンキー Ti-da Bar パティスリーエチエンヌ Dining 旬 しんゆり会計

わかみや 石綿商店

協力 株式会社北島工務店 株式会社エリアブレイン イオンシネマ新百合ヶ丘

イオンスタイル新百合ヶ丘 シネマ・チュプキ・タバタ

4) 2023 年度の各活動の内容

1. 第 29 回 KAWASAKI しんゆり映画祭 2023(本祭)

今年は「この映画たちがあなたと出会えますように」をキャッチコピーとしました。コロナ禍が落ち着き、社会活動が回復してきた情勢において、たくさんの人たちに映画館に足を運んでもらい、映画を通じてひとときを共有し、分かち合いたいとの思いをこめて、13 作品を選定・上映するとともに、イベントを企画しました。多彩な 11 名のゲストをお迎えしたアフタートーク等を開催し、昨年度を大きく上回る観客にご来場いただき、映画を「創る人」と「観る人」をつなぐお祭りとなりました。また、「観せる人」として多くの市民がスタッフとして参加することも当映画祭の特色の一つです。今年も約半年をかけて、市民目線でプログラムを選定し、上映の特集を組み、イベント企画を行いました。(下記リスト参照)

【上映作品・登壇ゲスト リスト】

* 敬称略

特集名	作品名	監督	登壇ゲスト
川崎ゆかりの映画	陸軍登戸研究所	楠山忠之	
	喜劇 駅前団地	久松誠二	藤田直哉
坂元裕吾監督から目を離すな！	ベイビーわるきゅーれ	坂元裕吾	坂元裕吾 園村健介
	ベイビーわるきゅーれ 2 ベイビー		
忘れられない日本人	劇場版 荒野に希望の灯をともし	谷津賢二	谷津賢二 大澤真幸
発掘感ある世界の名作	オリ・マキの人生で最も幸せな日	ユホ・クオスマネン	
	セールス・ガールの考現学	センゲドルジ・ジャンチブルドジ	戸田真琴
戦争・記録・記憶	ペルシャン・レッスン 戦場の教室	ヴァディム・パールマン	渋谷哲也
新たな技術と犯罪の境界線	Winny	松本優作	松本優作 東出昌大(オンライン)
ある夏の残像	aftersun/アフターサン	シャーロット・ウェルズ	
彼女たちの生き方	ケイコ目を澄ませて	三宅唱	
	そばかす	玉田真也	玉田真也 三浦透子 (ビデオメッセージ)
しんゆりこどもシアター	ソング・オブ・ザ・シー 海のうた	トム・ムーア	

【各プログラム及びイベントの内容】

①『喜劇 駅前団地』

しんゆり映画祭では「映画とともに まちとともに」という通念テーマを掲げて「川崎ゆかりの映画」をこれまでも上映してきました。今年は「川崎ゆかりの映画 - 映画から読み取る町の風景と歴史」として、川崎の豊かな歴史と文化を次世代に伝えることも意識し、当作品を上映しました。

1961 年に公開された本作は、百合ヶ丘や西生田周辺で撮影され、60 年以上の時を経てもその面影を留める場面が多く、昔の風景を思い出された方もいらっしゃいました。また、三世代でご来場のご家族もいらっしゃり、会場は満員御礼の大盛況となりました。



上映後には、一般財団法人川崎新都心街づくり財団の研究調査「新百合ヶ丘における芸術文化活動に関する調査」を共同でご担当された日本映画大学の藤田直哉准教授をお招きし、麻生区近郊の発展とその歴史に関するお話をお聞かせいただきました。「郷土愛と文化芸術に対する愛、参加精神は新百合ヶ丘の宝」と述べられ、文化資産の継承と地域発展の重要性をお示しいただきました。観客の皆様からは「新百合ヶ丘と芸術文化との関わり合い、成り立ち等、初めて知る内容が多く興味深かった」といったお声をいただきました。

②『陸軍登戸研究所』

「川崎ゆかりの映画」特集としての上映で、当映画祭では2014年以来9年振りの上映となります。本作は、正式名称「第九陸軍技術研究所」、通称「陸軍登戸研究所」に関わった人々の貴重な証言が記録された映画です。世界中で戦争や紛争が起きている今だからこそ、私たちの街・川崎にある戦争の跡を知ることの意味が大きくなっているのではと考え、この作品を上映しました。

「陸軍登戸研究所」は川崎市生田に実在した施設で、現在、敷地の一部は明治大学生田キャンパスとなり、当時の建物も残っています。当日は明治大学平和教育登戸研究所資料館のご協力を得て、資料館のパンフレットを会場でお配りしました。これからも映画を通じて地域の歴史と文化を再発見し、将来への架け橋となるような映画、そして地域に根差した映画の魅力を伝え続けてまいります。

③④『ベイベーわるきゅーれ』『ベイベーわるきゅーれ2ベイベー』

新進気鋭の阪元裕吾監督作品を、新百合ヶ丘に届けたいというスタッフたちの熱意からスタートした本企画は、シリーズ2作の連続上映に加え、阪元監督と園村アクション監督のご登壇をいただき、多くの観客にお越しいただくことができました。本作は殺し屋をテーマにしたアクション映画で、高度なアクションと主人公二人組の日常コメディの緩急がクセになる良作です。



11月4日(土)の上映後、阪元監督からは撮影の裏話や、園村アクション監督からは1作目と2作目の演出意図の違いなど貴重なお話をお伺いでき、会場からの質問にも丁寧にお答えいただきました。

また、イベント終了後には、サインをお求めになる観客で長蛇の列ができ、作品への熱い思いをお話になる一人一人と、監督たちの交流の場となりました。

阪元裕吾監督(左)・園村健介アクション監督(右)

⑤『劇場版 荒野に希望の灯をともし』

本作は、戦火の続く異国の地で35年に渡り、病と貧困・干ばつに苦しむ人々に寄り添いながら人道支援活動が続けた、中村哲医師らを21年間にわたり記録したドキュメンタリー。2回の上映回とも満席となり、中村医師の思索と実践への関心の高さを実感しました。

1回目の上映後のトークゲストは谷津賢二監督。中村医師らの活動について、中村医師の人柄と現地の人たちとの協働やふれあいの様子などを含め、貴重なお話を伺いました。トーク終了後、さらに観客と監督との懇談の場も設けさせていただきました。2回目のゲストには社会学者の大澤真幸さん。中村医師らの活動を普遍化するという視点からお話を伺いました。同時に実施した中村医師の活動を継承するペシャワール会への募金を行い、予想を大きく上回る寄付(総額:173,459円)が寄せられました。



左：谷津賢二監督(10/28) 右：大澤真幸氏(11/5)

⑥『オリ・マキの人生で最も幸せな日』

この作品は、1962年にフィンランドに実在したボクサーが世界戦に挑む数日間を描いた映画ですが、しっとりしたトーンの恋愛映画でもあり、幅広い層の心に刺さる作品です。カンヌ国際映画祭「ある視点部門」のグランプリですが、コロナ禍のなか公開されたことが影響し、周囲の映画好きの人でも鑑賞した人がほとんどいない状況となっていた作品でした。世界の秀作と出会う機会を提供するこの映画祭で、「発掘感のある世界の秀作」特集として本作の上映を行い、アンケートでも「普段見れない作品に出会えました」という感想が寄せられ、多様な作品を上映する映画祭としての役割を担えた上映企画となりました。

⑦『セールス・ガールの考現学』

本作はモンゴルの首都ウランバートルに暮らす女子大学生がアダルトショップでアルバイトを始めたことから、そこでの出会いを通して成長していく物語です。あまり作品に触れることの少ないモンゴルの映画を上映し、欧米だけでない世界の映画の豊かさや面白さをお届けしたいと考え、今回企画しました。



11/4は本作のパンフレットに寄稿をされている文筆家で映画監督の戸田真琴さんにトークイベントにお越しいただきました。注目シーンや響いたセリフなど、映画監督としての視点や、主人公の心境に寄り添った考察などを具体的にお話いただき、作品への理解をより深める時間をお届けすることができました。映画祭では今後も国内外の秀作をお届けしていきたいと考えております。

⑧『ペルシャン・レッスン 戦場の教室』

本作は、強制収容所が舞台の映画で、いわゆる「ナチスもの」と評される作品ですが、汎人類的なテーマも伝わってくる良作で、細部まで作りこまれたサスペンス映画としての魅力にもあふれた作品です。今年この作品を上映したいと考えたのは、世界各地で相次ぐ戦災や自然災害で亡くなられた方々の数字は単なる数字ではないと改めて伝えてくれる作品だったからです。



5日の上映後には、ドイツ映画に関する著作を多数出されている日本大学文理学部教授の渋谷哲也さんをお迎えしたゲストークを実施しました。ドイツ語の使われ方や、言語からみえる関係性の変化など、字幕だけで鑑賞してはわからなかった部分までお話していただきました。観客アンケートでも「より深く理解できた」など多くのお声が寄せられました。

⑨『Winny』

本作は、2002年に革新的なファイル共有ソフト「Winny」を開発した故・金子勇氏の逮捕から裁判での勝訴までの約7年間を描いた事実を元にしたドラマです。



11月3日の上映後には、松本優作監督と主演の東出昌大さん（オンライン）をお迎えしたトークイベントを開催しました。松本監督には、本作との出会いから脚本段階での膨大な取材を行ったことをはじめ、本作に込めた思いなどをたっぷりお話していただきました。東出さんからは、役作りのご苦労をはじめ、共演者とのお話から演技論まで、幅広くお聞きすることができました。

改めて、一つの作品には、“創る側”の筆舌に尽くし難い努力・熱意、たくさんの人の協力・関わりが積み重ねられ凝縮されているのだと認識したひと時でした。

⑩『aftersun/アフターサン』

スコットランド出身のシャーロット・ウェルズの長編デビュー作で、各国の映画祭で高い評価を得た作品。日本では今年の5月に公開され、都内のミニシアターを中心に連日満席の日が続き、評判になりました。新百合ヶ丘地区では本映画祭での上映が初となりました。この作品は父と娘の夏の旅行の思い出を回想するというシンプルな物語にも関わらず、極力説明を排した展開や、繊細な演出、凝った映像処理などにより、観終わった後にいくつもの疑問が湧き、もう一度観直したくなるような映画です。



そこで上映終了後に、川崎市アートセンターの3階にあるコラボレーションスペースで、この映画について気軽に語り合う会を実施しました。1つの映画を立場や育った環境で様々な受け取り方をされていることをお聞きでき、お互いに新しい発見を共有する貴重な体験ができました。来年以降もぜひこの取り組みをつなげていきたいと思います。

⑪『ケイコ 目を澄ませて』

本作はバリアフリー日本語字幕付き上映、UDCast 音声対応作品として上映。本作は映画祭スタッフからの推薦の声が多かったことに加え、本作の原案となった本の著者が聴覚障害者の元女性プロボクサーということからも障害の当事者の方たちの間でも話題となっていたということも、企画理由の一つでした。

16ミリフィルムで撮影された映像の美しさや音づかい、俳優さんのたたずまいに魅せられ、観るたびに作り手の思いに気づきがある素晴らしい映画を、多くのお客さんにスクリーンでご覧いただけました。

私たちの映画祭では、2000年より聴覚障害者の方に向けた上映に取り組んできました。今年、映画祭上映サービスについて聴覚障害者の方を対象としたWebアンケートとヒアリングを実施し、寄せられたご意見をもとに、スクリーンに字幕を投射するバリアフリー日本語字幕付き上映を充実させました。外国語映画(日本語字幕)もよくご覧になられていることが分かり、外国語映画のイベント開催時も手話通訳要約筆記のご予約の対象作品とさせていただきます。来年度以降もサービスを拡充しつつ、それが当たり前になっていくように取り組んでいきたいとスタッフ一同考えています。

⑫『そばかす』

本作は主人公が自身の性や気持ちと向き合い、悩みながらも自分を肯定し生きて行く姿が描かれた作品です。

11/3の上映後には、玉田真也監督にご登壇いただきました。当事者のお話をしっかりと取り入れながらも、多様性について啓蒙的にならないように取り組まれたことや、企画段階から作品が出来上がるまでの様子をお話いただき、観客からも多くの感想をいただきました。



また、主人公を演じた三浦透子さんからビデオメッセージをお寄せいただき、作品への理解と共感をより一層深めるきっかけとなりました。玉田監督からは、三浦さんが「俳優ももっと積極的に制作に関わりたい」とおっしゃり、監督やスタッフと一緒に作品作りに取り組まれたというエピソードもご紹介いただき、作品の制作現場の熱量が観客に伝わっていくのが感じられました。

しんゆり映画祭では、1997年より視覚障害者の方の映画鑑賞をサポートする副音声ガイドの制作と上映に取り組んでいます。今年の「そばかす」のガイドは、映画祭で独自に制作しました。ガイド台本を作る過程では、シーンごとに解説表現が適切か検討しながら同じシーンを繰り返し観るため、作品への理解が深まるとともに、監督や俳優などの「創る人」の細やかな意図やこだわりを発見する面白い体験でもあります。

また本作は、上映中にお子さんをお預かりする「保育付き上映」でもありました。映画祭では今後も「劇場でみんな一緒に映画を楽しむ」取り組みを続けるとともに、多様性がテーマの作品の上映など、様々なバリアフリー上映活動が続けていきたいと考えています。

⑬『ソング・オブ・ザ・シー 海のうた』

映画祭では、若い世代の方にも劇場で映画を楽しんでいただきたいと、毎年「しんゆりこどもシアター」という名称で、お子さん向け作品やご家族で楽しめる作品を上映しています。本作はアイルランドの神話をベースにした、兄妹の不思議な大冒険と、家族の絆を取り戻す物語で、非常に美しい絵柄と、繊細なアニメーションで綴られる作品です。両日とも多くのご家族に足を運んでいただきました。



上映後は「宝さがしゲーム」を実施しました。会場施設内にいる、劇中のアイテムを身に着けた映画祭スタッフを見つけ出し、秘密の合言葉を伝えると、映画祭オリジナルシールが貰えるというものです。お子さんだけでなく大人も含めた沢山の方々に参加していただき、楽しい思い出と一緒にシールをお持ち帰りいただきました。上映だけでなく、こうしたお祭りならではのイベントは、今後も継続して企画していきたいと思っています。

【次世代を担う若者の育成に向けた取組】

KAWASAKI しんゆり映画祭では、未就学児から若い世代に映画の楽しさ・素晴らしさにもらうことを目指し、地域で活動されている団体様との連携や地域資源を活用しながら、様々な取組を行っています。昨年度に引き続き小学生向けの作品を紹介するチラシを、川崎市教育委員会の協力で児童に配布しました。

2. なつやすみ野外上映会（麻生区地域課題対応事業）

「なつやすみ野外上映会」は、映画祭のプレイベントとしてまた、地域の夏祭りを再現する催しとして実施してきました。

今回は、王禅寺中央中学校を会場として「シチリアを征服したクマ王国の物語」（アニメーション）を上映しました。

コロナ禍の影響が緩和された状況を踏まえ、定員を 420 名に拡大（昨年度：250 名）し、「出店」を久しぶりに再開しました。地元の方々や福祉施設など 3 軒がお祭りを盛り上げてくれました。当映画祭スタッフも「ソーマトローブうちわ」体験コーナーを設置し、映画の原理であるソーマトローブを紹介し、映画祭マスコットキャラクター“シネマウマ”の塗り絵を楽しみながら、映画の原理に触れる機会を提供しました。

本編上映前のイベントとして、上映作品にちなんだアニメーションの原理を紹介するミニワークショップを実施しました。また、2022 年度「ジュニア映画制作ワークショップ」で中学生が制作したコマ撮りアニメーションの作品上映と、中学生へのインタビューを行いました。時折笑い声が起こるなど会場はなごやかな雰囲気になりました。



■ソーマトローブうちわ体験コーナー



■地元有志による出店



■ジュニア映画制作 WS の紹介



■上映風景

3. ジュニア映画制作ワークショップ 2023



2023 年は、指導講師に日本映画大学出身で映画監督の三澤拓哉氏をお迎えして、中学生が参加しやすい短期ワークショップとして、制作期間 2 日・作品発表 1 日とした合計 3 日間の内容で 2 日程での実施としました。

12/2 (土) ~3 (日) の第 1 日程には 6 名、12/9 (土) ~10 (日) の第 2 日程には 9 名の中学生が短編映画のグループ制作に取り組みました。

受講生は「映画制作」という共通の興味ですぐに打ち解け、意見を出し合いながらシナリオをつくり、カメラの位置や撮り方を学びながらリハーサルを行い、撮影に臨みました。

作品発表は 2 日程の全員が集まり、12/17 (日) に川崎市アートセンター・映像館で行いました。保護者の皆さんをお招きして上映と舞台挨拶を行いました。制作チーム毎にそれぞれが参加した感想や作品の見どころなどを話し、そして、もう一方のチームや観客との Q&A を行いました。三澤講師から「自分が感じたことを他の人に伝えたいが表現することの第 1 歩、これからは伝えてほしい」という言葉をいただき、閉会しました。

第一線で活躍される映画人の三澤監督と、これから「創る人」「観る人」「観せる人」となっていく中学生をつなぐワークショップが開催できました。「しんゆり交流空間リリオス」、新百合 21 ビルに撮影協力いただき、川崎市アートセンターには作品発表会のため劇場をお貸しいただきました。地域の皆さまに支えていただきながら、無事終了することができました。



4. バリアフリー上映「しんゆりバリアフリーシアター」(本祭で実施)

《2024 年度対象作品と内容》

- ・副音声イヤホンガイド付き作品…「そばかす」
- ・バリアフリー日本語字幕付き作品…「劇場版 荒野に希望の灯をともし」「ケイコ 目を澄ませて」「ベイビーわるきゅーれ」「ベイビーわるきゅーれ 2 ベイビー」
- ・バリアフリー上映アプリ対応作品…「劇場版 荒野に希望の灯をともし」「ケイコ 目を澄ませて」
- ・字幕ガイド対象作品および外国語映画(日本語字幕)でのイベント実施時の手話通訳・要約筆記の予約
- ・保育付きサービス対象作品…「aftersun/アフターサン」「そばかす」
- ・「小劇場・親子観劇室」の利用予約…「ソング・オブ・ザ・シー 海のうた」を除く、小劇場上映作品
- ・車イス利用スペースの予約…すべての上映作品対象



『劇場版 荒野に希望の灯をともし』
トークイベントにおける
手話通訳サービス



開場時の諸注意を手話で説明した動画



聴覚障がいの方へのヒアリング



視覚障がいの方向け送迎研修

1997 年、中途視覚障がいの方からの「映画の場面説明もイヤホンで聴けないだろうか？」という電話から、独自に副音声イヤホンガイドの制作・上映をはじめました。その後、聴覚障がいの方は、字幕のある外国語映画と違って、日本映画を見る機会が少ないと知り、日本映画の日本語字幕付き上映の取り組みを始めました。育児中でも劇場で映画が観たいという方の声をもとに別室保育を、また、周りの目を気にせずお子さんと一緒に映画を見たいという方には小劇場親子観劇室利用サービスを実施してきました。車椅子ご利用の方からのご要望で、駅からの案内動画や手書きアクセスマップを作成、「あさお交流カフェ」で提案させていただくなど、市民の皆さんと一緒に手探りでバリアフリー上映活動が続けてきました。

今年度「そばかす」の副音声ガイドを、映画祭で独自に制作しました。ガイド台本を作る過程では、シーンごとに解説表現が適切か検討しながら同じシーンを繰り返し観るため、作品テーマへの理解が深まるとともに、監督や俳優さんたち「創る人」の細やかな意図やこだわりを発見する面白い体験でもあります。

近年、商業映画を中心に音声ガイド（並びに字幕・手話表示）の自動同期配信アプリケーションUDCast®、HELLO!MOVIE®対応作品が増えたことに伴い映画祭上映ラインナップにも対応作品が増え、より利用していただきやすくなりました。視覚障がい者の方には新百合ヶ丘駅と会場（川崎市アートセンター）間の送迎サービスをしており、今年も全スタッフ対象の事前研修を行い、本番に備えました。

上映中にお子さんをお預かりする「保育付き上映」は、今年度コロナウイルス感染症の対策による見合わせを緩和し、3年ぶりに「そばかす」「アフターサン」の2作品に保育付き上映の受付を再開しました。

聴覚障がい者の方に、アンケート及びヒアリングを実施し、聴覚障がいの方がより利用しやすいようにする為の意見等を伺いました（内容はWEBに掲載しています。<https://x.gd/RxOqQ>）。ご意見をもとにスクリーンへの字幕投射を4本に増やし、開場時の諸注意を手話で説明した動画を作成してロビーで放映対応、案内スタッフによる筆談対応、上映前の市民プロデューサー挨拶を視覚情報化するなどの対応を行いました。

映画祭では今後も「劇場でみんな一緒に映画を楽しむ」バリアフリー上映活動が続けていきたいと考えています。

5. 地域連携(他団体・事業者などとの交流・連携)

当映画祭は、通年テーマとして「映画とともに まちとともに」を掲げ、地域の団体・事業者の皆様からのご協力をいただきながら、「映画」を中心とした「芸術のまちづくり」を実践しています。ご協力だけでなく、地域の皆様からの声をいただきながら、連携・交流を進め、また、街のイベントへの参加を積極的に行うことで、活動の輪を広げることに努めています。

また、映画祭が拠点とする新百合ヶ丘周辺には、様々なまちづくり、団体が活動されています。こうした団体の活動に、映画祭も“しんゆりの一員”として積極的に参加しています。今後も、機会を捉えて地域イベントに映画祭スタッフが参加し地域の発展・活性化に貢献してまいります。

①地域団体との連携と交流・イベント等への参加

「しんゆりフェスティバル・マルシェ」、「あさお区民まつり」



10月7日・8日の「しんゆりフェスティバル・マルシェ」に参加させていただき、ブース内で前売券の販売や映画祭PRを行いました。イベントを主催する新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアムは、まちの活性化とブランド力向上を目指して活動されており、当映画祭をご支援いただいている協賛者でもあります。当映画祭も、コンソーシアムの活動の趣旨に賛同し、コミュニティ会員として参加しています。



また、8日には、麻生区主催の「あさお区民まつり」にも参加しました。映画祭のマスコットキャラクター“シネマウマ”の塗り絵コーナーを設け、多くの方に楽しんでもらいました。なお、塗り絵の一部は、本祭の劇場前を飾るメインビジュアルの中で活用させていただきました。

「新百合ヶ丘南口クリーンアップ大作戦」

新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアムが、定期開催し、麻生区、地元企業やボランティアなどが参加して駅周辺の清掃や花壇の手入れを行っています。今年は、5月27日、11月11日に開催され当映画祭スタッフも参加し、100人を超える他団体の参加者の方々と一緒に汗を流しました。

「あさ子育てフェスタ」



9月16日に麻生区の子育て応援イベント「第10回あさ子育てフェスタ」に参加しました。昨年に引き続き2回目の参加になります。ブースでは、映画祭で例年行っている「なつやすみ野外上映会」の報告、「ジュニア映画制作ワークショップ」、「しんゆりこどもシアター」、「小劇場親子観劇室利用」などの紹介を行いました。また、ソーマトロープ体験スペースも設置し、多くのお子さんに楽しんでいただきました。

「檜山 PARK イベント」



麻生区は、新百合ヶ丘駅周辺の地域資源かつ公共空間である公園緑地等のポテンシャルを最大限に活かしながら、まちの新たな魅力やにぎわいを創出するため、万福寺檜山公園でイベントを通じた活用に関する実証実験に取り組みながら、まちづくりにおける公共空間の有効活用の方向性について検証を進めています。映画祭では、3月18日に開催された同イベントに、ソーマトロープ体験コーナーで参加しました。ソーマトロープうちわが全て無くなるほどの盛況となりました。

「つながる×つなげる～芸術+ひと+まち～」プログラム

川崎市アートセンターが主催する講座の第2回「芸術によるまちづくりを考える～フェスティバルにおける市民ボランティアの果たす役割の可能性」（11月14日、川崎市アートセンター・小劇場）シンポジウムのパネラーの一人として、映画祭の岡村実行委員長が登壇し、活動内容や運営体制などについて説明を行い、映画祭のPRを行うとともに、他の登壇者の方々と交流を行いました。

第4回では、「副音声ガイド付き上映の舞台裏」において、バリアフリーシアターを担当する映画祭スタッフが登壇し、当映画祭から発展し川崎市アートセンターの事業化されたバリアフリー上映のあらましや制作過程の解説など活動の紹介と普及を行いました。

「カフェグランデあさお 2023」

同イベントは、「芸術文化のまち・あさお」を知って体験できることを目的に、麻生区に関連する芸術・文化関連団体が連携・協力して開催されています。映画祭では、活動内容をまとめた掲示物を作成・展示しPRに努めました。

②本祭における出店の展開

アートセンター3階コラボレーションスペースと建物外において、市内の4業者のご協力を得て出店を展開しました。コロナ禍による中断を経て4年ぶりの再開に観客の反応は良好で、上映の前後に賑わいを見せていました。また、出店者との新たな交流もでき、今後も積極的な展開に向け企画をしたいと考えています。



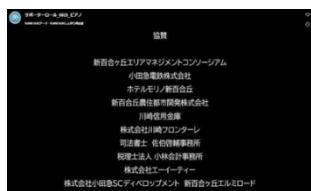
地域活動センター 夢屋（中原区）

多摩川あゆ工房レゼル（多摩区）

寺子茶屋（多摩区）

彩紅茶（麻生区）

③「サポーターロール」の制作・上映



当映画祭は、共催・特別後援・後援・協賛・協力など、多くの方々からのご支援・ご理解により支えられています。感謝の気持ちを表すため、昨年よりスタッフ手作りで「サポーターロール」を制作し、本祭(映像館)において、映画予告編とあわせ上映しています。BGM には麻生区イメージソング「かがやいて麻生」を添えました。映画祭を支えて下さる皆様に感謝の気持ちをお伝えしながら、活動を続けてまいります。

④ポスター等の広告宣伝および店舗等でのチラシの配架

当映画祭では新百合ヶ丘周辺地域の多くの方々の御理解とご協力のもと、広告ポスター提示や店舗等でのチラシの配架をさせていただいています。

今年も新百合ヶ丘駅南口デッキでの立て看板設置や地下バスロータリーでの柱巻き広告をはじめ、各所でポスター掲示やリーフレットを置かせていただきました。加えて、小田急電鉄様のご協力のもと新百合ヶ丘駅構内にもポスターやのぼり旗などを設置させていただきました。アンケートの結果からも、観客の多くが掲示物やチラシから情報を得られていました。今後ともご協力、お力添えをいただければと思います。



南口デッキの立て看板



ポスターミナル柱巻き広告



新百合ヶ丘駅構内の様子

Ⅲ. 最後に ～ご協力ありがとうございました～



新型コロナウイルス感染症が落ち着いた中、4年ぶりに感染症対策に係る対処方針やガイドライン等に依らない運営に戻りました。全席指定席制や当日券販売テントは継続し、混雑緩和に取り組みました。

おかげさまで今年も無事に本祭を終了することができ、観客アンケートの集計結果でも多くの皆さまから高い「満足度」のご意見が寄せられました。ご来場のお客さまをはじめ、関係各位のご協力に改めて感謝申し上げます。2024年度は映画祭30回の節目の一年になります。30回記念企画はもちろん、また、市制100周年とも連携し、祝意を表した企画を行う予定です。観客の安全・安心と、快適な鑑賞環境の確保を最優先に、映画祭の開催に向けて準備を進めてまいります。引き続き、皆さまのご理解とご支援を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

《注意 写真の無断転載はご遠慮願います》

NPO 法人 KAWASAKI アーツ・映画祭事務局
KAWASAKI しんゆり映画祭実行委員会

〒215-0004

川崎市麻生区万福寺 1-2-2 新百合 21ビル B2 階

TEL : 044-953-7652 / FAX : 044-953-7685

E-Mail : cinema-uma@siff.jp

ホームページ URL: <https://www.main.siff.jp/>